平成 26 年 11 月 21 日

ところ会員

ところ会　11 月行事案内

平成 26 年度、第 11 回テーマ：西武沿線の散策（１）
長命寺・石神井城・三宝寺

今回は都内の紅葉には早いかもしれませんが、西武沿線の史跡名所を散策するコースを選んでみました。（コース全長約 6km）

記

■日　　時：平成 26 年 11 月 21 日（金）9 時 00 分集合

■**集合場所**：西武線所沢駅特急券売り場前付近

■**見学場所及び時間:**

所沢駅(8:55 集合・出発 9:02)⇒練馬高野台(9:28)⇒長命寺（南大門・石仏等）⇒榎本家長屋門⇒観蔵院（筆子碑）⇒禅定院(石幢六面六地蔵・織部灯篭)⇒昼食(11:30～12:30)⇒道場寺・三宝寺⇒石神井城址・三宝寺池等々の散策⇒石神井公園駅へ(20 分)⇒西武石神井公園駅(14:00 頃)⇒所沢駅帰着(14:30)

■**昼食場所**：

辰巳庵　　練馬区下石神井６丁目４４－１３　03-3997-5538

全員　ねぎおろしかつランチ（¥1,000）でお願いします。

ダメな場合はご相談下さい。なお、アイスコーヒーは 110 円で注文できます。（ホットはだめ）

≪見学場所簡単ガイド≫

＜ 長 命 寺 ＞

長命寺は、真言宗豊山派で、山号は**東高野山**。江戸時代から「東の高野

山」として関東地方でも有数の霊場として広く人々から信仰を得ていた。また、東高野山が**高野台**という地名の由来になっている。

武蔵野観音霊場＊1**第一番札所**

＊1：所沢市では實蔵院、新光寺、普門院、全徳寺、金乗院、松林寺が該当

境内には、練馬の名木に指定されている菩提樹や白樫をはじめ多くの木々がある。

【歴史】

長命寺は、慶長 18 年(1613 年)に北条早雲のひ孫にあたる**増島重明**によって弘法大師像を祀る庵を作ったのが始まりといわれている。

その後寛永 17 年(1640 年) 奈良・長谷寺の小池坊秀算により十一面観音像が作られ、「長命寺」の称号を得る。また、1648 年に三代将軍・**徳川家光**により 9 石 5 斗の御朱印を賜り、**朱印寺**として著名になった。

当寺院は**高野山奥の院を模して多くの石仏・石塔**が作られており、**東高野**または**新高野**として人々から信仰を得るようになった。

【史跡施設】

- **南大門**…当寺院の山門で、四天王像が安置されている。

正面左に**広目天**と右に**増長天**、裏は左に**持国天**と右に**多聞天**である。

四天王は須弥の四洲を守護するもので、持国天：東方、増長天：南、広目天：西、多聞天：北に配置されている。

また、多聞天は四天王の一尊として造像安置する場合は「多聞天」、独尊像として造像安置する場合は「**毘沙門天**」と呼ぶのが通例である。中富の多聞院には毘沙門堂がある。

- **仁王門**

長命寺最古の建造物で、寛文年間（1661～1673）に建立されたものという。

- **十三仏**

南大門を入ると十三仏がある。**十三仏**は**十王**を元に日本で考えられたも

ので、十王による審理の後三回の審理（七回忌・十三回忌・三十三回忌）を加えた物で、それを守護する仏である。

十王：すべての衆生は没後に中陰と呼ばれる存在となり、初七日～四十九日までに七回の審理を受け、六道の何れかへ行く。その後、追加の審理が三回（百か日、一周忌、三回忌）あり、救済がされる。十王は中国で道教と習合して作られた思想である。

十三仏	審理	裁判官	読み
不動明王	初七日	秦広王	しんこうおう
釈迦如来	二七日	初江王	しょこうおう
文殊菩薩	三七日	宋帝王	そうていおう
普賢菩薩	四七日	五官王	ごかんおう
地蔵菩薩	五七日	**閻魔王**	えんまおう
弥勒菩薩	六七日	変成王	へんじょうおう
薬師如来	七七日	泰山王	たいざんおう
観音菩薩	百か日	平等王	びょうどうおう
勢至菩薩	一周忌	都市王	としおう
阿弥陀如来	三回忌	五道転輪王	ごどうてんりんおう
阿閦如来	七回忌	蓮華王	れんげおう
大日如来	十三回忌	祇園王	ぎおんおう
虚空蔵菩薩	三十三回忌	法界王	ほうかいおう

鐘楼…慶安 3 年（1650）に鋳造されたもので、練馬区で最古の梵鐘。

- **金堂**…金堂は幾度もの火災により焼失し、現在の金堂は明治 37 年に再建されたものを昭和 46 年に修復したもの。不動明王像などが安置されている。
- **奥の院**

本堂の手前左手に東高野山奥の院入り口（左の写真）の石碑がある。奥の院は紀州高野山の弘法大師入定の地勢を模して整備したもので、御廟橋から奥之院（大師堂）に通ずる沿道の両側には多数の**供養塔・灯籠・六地蔵尊**（坐像）**・宝篋印塔・庚申塔・馬頭観音・千手観音・五百羅漢・水盤・姿見井戸**などが配列されています。1652 年に徳川家光の一周忌を追悼してさまざまな石仏・石塔を安置したもので、その数は練馬区最多で東京都の指定文化財である。

中国風の石造が 10 体並んでいるところがあります。これは、道教の影響を受けてできた**十王**と思われます。

- **姿見の井戸**…井戸をのぞきこんだときに、自分の顔が水面に写れば長生きできるという言い伝えがある。（深い井戸なので良く見ないと見えませんよ）
- **御影堂**…奥の院にある。開基である増島重明によって祀られた弘法大師像が安置されている。普段は秘仏であるが、毎年 4 月 21 日に開帳される。開帳と同時期に境内では植木市と稚児行列が行われる。
- **観音堂**…**本尊**である**十一面観音像**が安置されている。現在の本尊の十一面観音像は当初ものではなく、1979 年に再建されたもの。
- **地蔵堂**

＜ 石神井川 ＞

石神井川の水源は花小金井の小金井カントリー倶楽部敷地内の湧水で、名とは異なり現在、三宝寺池・石神井池とは接続されていない。下流はかつては王子あたりから南に行き、不忍池あたりを通って東京湾に流れ込んでいたが、現在では王子から隅田川に流れ込んでいる。

＜ 榎 本 家 長 屋 門 ＞ …… 練馬区ホームページより

江戸時代末期の建築と推定される旧田中村の名主役宅門です。桁行は 13.5m、梁間は 4.5 メートルです。門の両側には部屋があり、下働きの人の住居や納屋として使われていたことから長屋門と呼ばれています。大正 13 年の火災により屋根は茅から鉄板にふき替えられています。

※長屋門：江戸時代の民家においては、村役人または苗字帯刀を許された

家の門形式として幕府から認められていました。

＜ 観 蔵 院 ＞ …… ブログ：猫のあしあとより

真言宗智山派寺院で、慈雲山曼荼羅寺観蔵院と称します。

文明９年に太田道潅は、豊島城を本城とし、このあたりに君臨する豪族の豊島氏を滅ぼした。そして豊島氏の出城であった石神井城の跡へ、文明９年（1477）に三寶寺を移転したのである。その折、三寶寺の塔頭※であった観蔵院を、この南田中の地へ移築し末寺としたといわれる。豊島八十八ヶ所霊場 81 番札所です。

※塔頭：たっちゅう 本来は禅宗寺院で開山または住持の死後，弟子が遺徳を慕ってその塔の頭（ほとり）、あるいは同じ敷地内に建てた小院。転じて、大寺の山内にある末寺。

本尊は不動明王です。本堂脇に薬師堂があり、**日の出薬師**と呼ばれ今も多くの崇敬をあつめています。堂内には薬師如来を信仰する人を衛護するといわれる十二神将が祭られており、堂前には日の出薬師の碑があります。

昔の田中村に薬師堂の地名があり、いまも石神井川に**薬師堂橋**の名で残っております。この日の出薬師は、昔は現在地より東北方にあってその地名の起りになったという口碑があります。門前には六地蔵や庚申塔、馬頭観音があり、墓地には元和年間（1615-24）の五輪塔、正保期（1644-48）の典型的な夫婦墓などがあります。また墓地入口には宝暦 12 年（1762）造立の**筆子塚**があり、区内で最も古い家塾の存在をうかがうことのできる教育資料として貴重なものです。

＜ 禅 定 院 ＞…… ブログ：猫のあしあとより

真言宗智山派寺院の禅定院は、照光山無量寺と号し、「新編武蔵風土記稿」によれば今から約 600 年前に願行上人が草創したと伝えられます。御府内八十八ヶ所霊場 70 番札所、豊島八十八ヶ所霊場 70 番札所です。

禅定院の本尊は阿弥陀如来です。文政年間（1818-30）の火災で、建物・記録などことごとく焼失しましたが、境内にある応安、至徳（**南北朝時代**）

年号の**板碑**によっても創建の古さをうかがうことができます。門前の堂宇に安置された六地蔵や鐘楼前の大宝篋印塔は石神井村の光明真言講中によって造立されたものです。本堂前の寛文 13 年（1673）と刻まれた**織部灯籠**（区登録文化財）はその像容から**別名キリシタン灯籠**といわれ、区内でも珍しい石造物の一つに数えられています。また、**石幢六面六地蔵**は石塔の六面に六地蔵を彫ったもので、区登録文化財となっている。

墓地入口にいぼの治癒に霊験のある**いぼとり地蔵**や、墓地内に寺子屋師匠の菩提を弔った**筆子塚**があります。 また、明治 7 年（1874）には、当地に区内初の公立小学校として豊島小学校が開校しました。

＜ 甘藍（キャベツ）の碑 ＞

練馬区はかつて大根の産地として有名だったが、昭和に入ってバライス病で大根は全滅した。その後はキャベツが生産の中心となって現在は東京の全出荷量の約 50%を占めている。この石碑は平成 10 年、東京ふるさと野菜供給事業 25 周年を記念して建てられたものである。

＜ 所沢道の碑 ＞

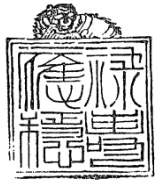
所沢道は概ね今の「早稲田通り」で、保谷を通り小金井街道につながり所沢に行く。新編武蔵風土記稿ではこの道を単に「所沢へノ道」と記してあり「所沢道」と書かれたのは大正 4 年が初めて。江戸の文人、大田南畝が「石神井三宝寺遊記」で歩んだ道でもあり、大泉・石神井から、江戸方面への産業の道であったと共に、江戸からの参詣・行楽の道でもありました。

＜ 道 場 寺 ＞ ……ブログ：猫のあしあとより

曹洞宗寺院の道場寺は、豊島山無量院と号します。道場寺は、文中元年（北朝応安 5 年、1372 年）、当時の**石神井城主豊島景村の養子輝時（北条高時の孫）**が、大覚禅師を招いて創建したといいます。

武蔵野観音霊場 第二番札所

道場寺開基の、輝時は自分の土地を寺に寄附して、**豊**



島氏代々の菩提寺としたと伝えられています。今でも豊島氏の菩提が弔われ、墓地には文明 9 年（1477）太田道灌に滅ぼされた**豊島氏最後の城主泰経や一族の墓**と伝えられる石塔 3 基があります。道場寺には、北条氏康印判状が所蔵されています。この古文書は、永禄 5 年（1562）4 月 21 日、小田原の北条氏康（1515-71）から禅居庵にあてて発給した**虎の朱印状**です。練馬区に関係する唯一の後北条氏の文書で、練馬区指定文化財。北条家が公式に発行する文書には、北条家の権威の象徴として押印する朱印には虎の絵が描かれています。

境内の三重塔（昭和 48 年建築）内には、人間国宝であった香取正彦作の金銅薬師如来像が置かれ、その台座にはスリランカより拝受の仏舎利が奉安されています。

【道場寺所蔵の文化財】

- 文応元年（1260）の弥陀板碑（練馬区登録文化財）

＜ 三 宝 寺 ＞……ブログ：猫のあしあとより

真言宗智山派寺院の三宝寺は、亀頂山密乗院三宝寺と号し、応永元年（1394）に鎌倉大楽寺の大徳権大僧都幸尊法印が当地周辺に創建しました。

文明 9 年（1477）、太田道灌により当地へ移転、天正 19 年（1591）には 10 石を与えられた**御朱印寺**でした。

武蔵野観音霊場 第三番札所、関東三十六不動第 11 番、御府内八十八ヶ所霊場 16 番、豊島八十八ヶ所霊場 16 番

三宝寺には幾多の文書記録が蔵されていたが、境域はしばしば兵火にかかり、さらに、文久 3 年（1863）と明治 7 年（1874）の 2 回火災に遇ったため、多くは灰塵に帰した。しかし、その文書の一部は「新編武蔵風土記稿」に記載されており、また古文書の写や江戸時代の文書記録などは数多く伝えられている。

寺宝は、木像の**紅頗梨色阿弥陀仏**（ぐはりじきあみだにょらい：制作年代不詳）や**来迎三尊仏画像板碑**（文明 4 年）など。鐘楼の**梵鐘は**延宝 3 年（1675）の銘があり、「新編武蔵風土記稿」によると、江戸増上寺の大鐘を鋳た時、その余銅をもって造ったと伝えている。山門は将軍家光（大猷院）が鷹狩で御成りになったことに因んで、**御成門**と呼ばれ、現在の門は文政 10 年（1827）に建てられ、当寺第一の古建築で、昭和 28 年（1953）修復されている。門前に寺格を表す**「守護使不入」の結界石**がある。

長屋門はもと**勝海舟邸**にあった由緒ある門で、区内旭町兎月園に移されていたものを、将軍家ゆかりの当寺が勝海舟を慕い昭和 35 年移築したものである。境内には多くの石造物があるが、田島鉄平の碑は明治期の石神井における養蚕を語るものとして注目に値する。

【三宝寺所蔵の文化財】

- 三宝寺の梵鐘（練馬区指定文化財）
- 弥陀三尊来迎画像板碑（練馬区登録文化財）
- 三宝寺山門（練馬区登録文化財）

＜ 氷 川 神 社 ＞

氷川神社は社伝によると応永年間（1394～1428）この地を領していた豊島市が石神井城内に武蔵一宮の分霊を奉斎して創建したといわれています。境内には享保 12 年（1727）の石神井郷　鎮守社　御手洗鉢と刻まれた**水盤**、本殿瑞垣の内にある**石灯籠**は元禄 12 年(1699)のもの。いずれも区指定文化財。

＜石神井城跡 ＞ ……ウィキペディア等より

【概要】

石神井城は平安時代から室町時代まで石神井川流域に勢力を張った豊島氏の後期の居城であり、長尾景春の乱で没落するまで同氏が拠った。

【歴史・沿革】

石神井城の築城時期は定かではないが、室町中期頃であったと考えられている。石神井川流域の開発領主として勢力を伸ばした豊島氏が築いた城

で、以後この地は豊島一族の本拠地にもなった。

豊島氏は貞和 5（1349）年に石神井郷の一円支配を開始したものの、応安元（1368）年の「平一揆の乱」に敗れて関東管領・上杉氏に所領を没収されており、その後応永 2（1395）年になってようやく同郷を還補（げんぽ=所領返却）されている。城内に創建された三宝寺が「応永年間の建立」と伝えられていることから、城もこの還補直後（応永年間）に築かれたとする説が有力である。

> ※**平一揆**：南北朝時代の代表的な国人一揆のひとつで、関東管領上杉憲顕に対して起こした反乱。

平安期以来、武蔵の名族として名を馳せていた豊島氏は室町時代中期、新興勢力の**扇谷上杉氏の**家宰太田氏と対立を深め、**長尾景春の乱において太田道灌に攻められ没落した。**文明年 9(1477)4 月 13 日のこの戦いにおいて、豊島氏は当主の泰経とその弟泰明はそれぞれ石神井城と練馬城に拠り太田道灌と対峙したが、惨敗を喫し、泰明は戦死、泰経は石神井城に敗走している。その後、4 月 21 日に泰経は城を捨て逃亡した。

【構造】

石神井城は石神井川と三宝寺池（石神井公園）を起点に延びる谷との間に挟まれた舌状台地上に位置する。ただし、同時期の他城郭とは異なり、台地の先端ではなく基部に占地し、堀切を用いて東西の両端を遮断している。

城の中心部分にあたる内郭の土塁と空堀は今も残っており、平成 10 年 11 月には約 5m の深さの空堀が発掘された。また、土塁の盛土下層から鉄製小刀が出土している。 区登録文化財：石神井城跡出土小刀

＜ 石 神 井 公 園 ＞

- 園内には、**石神井池**、**三宝寺池**がある。井の頭池、善福寺池と並び、**武蔵野三大湧水池**として知られている。

三宝寺池は古来より、武蔵野台地からの地下水が湧き出る池として存在

していたが、年々水量が減少し、景観維持のため、池の水も人工的に**地下水から揚水**している。

【三宝寺池】

- 三宝寺池の一部は、国指定の天然記念物である**三宝寺池沼沢植物群落**がある。
- 石神井川の流域の豪族であった豊島氏も、三宝寺池の水の支配の為、この南の台地に石神井城を築城した、とされている。1996 年に、「三宝寺池の鳥と水と樹々の音」が、環境庁選定の「**残したい日本の音風景 100 選**」に選ばれている。また、1993 年 8 月三宝池でワニの目撃証言があいついだため、マスコミが連日報道し、罠をしかけるなどの大騒動になったが、結局発見されなかった。
- 三宝寺池には石神井城落城の際に豊島氏の姫、**照姫が身を投げた**と言う伝説があり、練馬区では照姫を偲んだ**照姫まつり**を 1988 年（昭和 63 年）より毎年 4 月-5 月に開催している。

  なお、照姫が身を投げたと伝えられているが、これは明治 29（1896）年に作家の遅塚麗水が著した小説『照日松』のストーリーが流布されたもので、「照姫」は全くの架空の人物である。

【石神井池】

- 石神井池（ボート池）は、三宝寺池一帯が風致地区に指定された際、三宝寺池とともに武蔵野の景観を保護する目的で人工的に作られたものである。

【公園周辺】

- 公園内に石神井城の空堀の一部が残る。近辺には、豊島氏や豊島氏を滅ぼした太田道灌にまつわる遺跡や神社がある。

以上